

# Asia Indicators

発表日: 2021年6月4日(金)

韓国・輸出、世界経済の回復が後押し of 展開が続く(Asia Weekly(5/31~6/4))

~アジア新興国のインフレ率は概ね原油価格の上昇を追い風に押し上げ圧力が掛かる展開~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/31(月)	(韓国)4月鉱工業生産(前年比)	+12.4%	+11.5%	+4.4%
	(中国)5月製造業PMI	51.0	51.1	51.1
	(タイ)4月製造業生産(前年比)	+18.46%	+14.90%	+5.89%
	(インド)1-3月実質GDP(前年比)	+1.6%	+1.0%	+0.5%
6/1(火)	(韓国)5月輸出(前年比)	+45.6%	+48.5%	+41.2%
	5月輸入(前年比)	+37.9%	+40.5%	+33.9%
	(中国)5月財新製造業PMI	52.0	51.9	51.9
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	0.10%	0.10%	0.10%
	(香港)4月小売売上高(前年比・数量ベース)	+10.9%	--	+19.9%
6/2(水)	(韓国)5月消費者物価(前年比)	+2.6%	+2.6%	+2.3%
	(豪州)1-3月実質GDP(前年比)	+1.1%	+0.6%	▲1.0%
	(インドネシア)5月消費者物価(前年比)	+1.68%	+1.67%	+1.42%
6/4(金)	(フィリピン)5月消費者物価(前年比)	+4.5%	+4.5%	+4.5%
	(タイ)5月消費者物価(前年比)	+2.44%	+2.85%	+3.41%
	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	4.00%	4.00%	4.00%
	(現金準備率)	4.00%	4.00%	4.00%
	(シンガポール)4月小売売上高(前年比)	+54.0%	--	+6.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## 【韓国】~世界経済の回復の動きを反映して、輸出入は引き続き底入れの動きを強める展開をみせている~

先月31日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比+12.4%となり、前月(同+4.4%)から伸びが加速した。前月比は▲1.57%と前月(同▲0.87%)から2ヶ月連続で減少しているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い展開が続いている。分野別では、製造業で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、底入れの動きが続いた建設業の生産にも一服感が出ている一方、鉱業部門の生産に大きく押し上げ圧力が掛かり全体を下支えする動きがみられる。なお、製造業のなかでは縫製品などの生産に底堅い動きがみられる一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、自動車をはじめとする輸送用機械、電気製品などといった輸出財の生産で底入れの動きに一服感が出ていることが重石になっている。平均設備稼働率も73.8%と前月(74.9%)から▲1.1pt低下してお

り、世界経済の底入れ期待を背景に拡大の動きを強めてきた流れに一服感が出ているとみられる。

1日に発表された5月の輸出額は前年同月比+45.6%となり、前月（同+41.2%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、自動車をはじめとする輸送用機械関連、石油化学製品関連などを中心に堅調な動きが続いており、欧米や中国など主要国での経済活動の正常化の進展などを背景に世界経済の回復が続いていることが輸出を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+37.9%となり、前月（同+33.9%）から伸びが加速している。前月比は4ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅さが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きが続いており、輸出の堅調さを背景に素材及び部材など原材料に対する需要の底堅さも輸入を下支えしている。結果、貿易収支は+29.25億ドルと前月（+4.34億ドル）から黒字幅が拡大している。

2日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.6%となり、前月（同+2.3%）から伸びが加速して2ヶ月連続で中銀が定めるインフレ目標（2%）を上回る水準で推移している。なお、前月比は+0.07%と前月（同+0.21%）から上昇ペースは鈍化しており、生鮮品をはじめとする食料品価格は下落傾向を強めているほか、国際原油価格の底入れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格も同様に底入れの動きが一服するなど、生活必需品を巡る物価上昇圧力が後退したことが影響している。一方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.17%と前月（同+1.08%）からわずかに伸びが加速しているものの、中銀が定めるインフレ目標を下回る推移が続いている。前月比は+0.17%と前月（同+0.24%）から上昇ペースはわずかに鈍化しているものの、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れを反映して消費財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染収束には依然ほど遠い状況が続いているものの、ワクチン接種を受けて行動制限が徐々に緩和される動きが広がり、サービス物価に緩やかに上昇圧力が掛かっていることもインフレ圧力に繋がっている。

図1 KR 鉱工業生産の推移

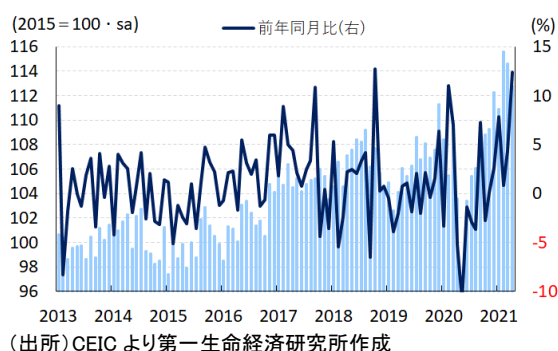


図2 KR 貿易動向の推移

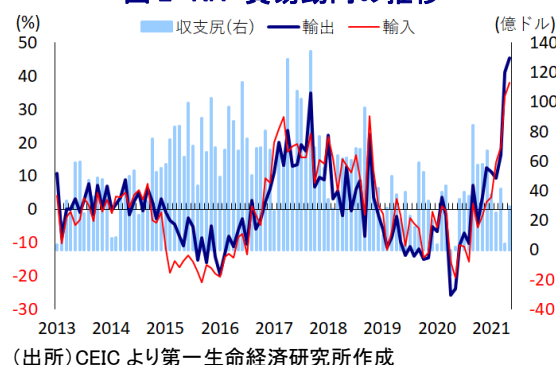
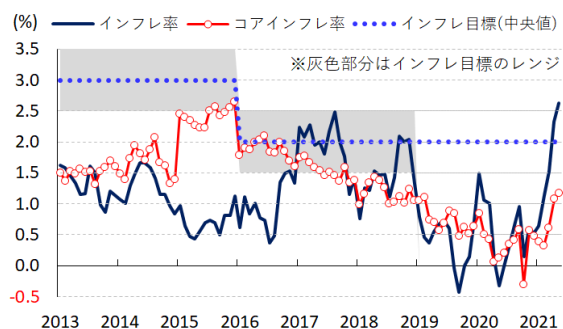


図3 KR インフレ率の推移

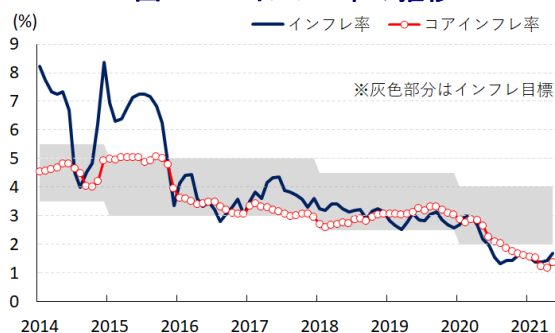


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [インドネシア]～食料品など生活必需品を中心とするインフレの一方、依然インフレ目標を下回る推移が続く～

2日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+1.68%となり、前月（同+1.42%）から伸びが加速した。前月比は+0.32%と前月（同+0.13%）から上昇ペースが加速しており、昨年後半以降における国際原油価格の底入れ一服の動きを反映してエネルギー価格の上昇は一服している一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇傾向を強めるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.37%となり、前月（同+1.18%）から伸びが加速しているものの、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標（ $3 \pm 1\%$ ）の下限を下回る推移が続いている。前月比も+0.24%と前月（同+0.14%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、サービス物価は鈍化傾向が続くなど対照的な動きをみせている。

図4 ID インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [タイ]～電力料金補助の再開によりインフレ率は頭打ち、感染再拡大による行動制限再強化の影響にも懸念～

先月31日に発表された4月の製造業生産は前年同月比+18.46%となり、前月（同+5.89%）から伸びが加速した。前月比は▲0.09%と前月（同+2.15%）から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅さを維持している。財別では、電子部品関連で堅調な動きが続いているほか、金属関連の生産も堅調に推移している上、半導体不足の影響が懸念されるにも拘らず自動車関連の生産も大幅に上振れするなど、主要な輸出財を中心に堅調な推移が続いている一方、化学製品関連の生産は弱含んでいるほか、縫製品をはじめとする軽工業関連の生産は鈍化傾向が続くなど対照的な動きをみせている。

4日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.44%となり、前月（同+3.41%）から伸びが鈍化して2ヶ月ぶりに中銀の定めるインフレ目標（2±1%）の範囲内に収まった。前月比も▲0.92%と前月（同+1.38%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、前月は政府が新型コロナウイルスを受けた景気下支え策として実施した電気料金に対する補助政策が終了した影響でエネルギー価格が大きく押し上げられたことが物価上昇に繋がったものの、当月は同措置が再開されたことで物価に下押し圧力が掛かった。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.49%と前月（同+0.30%）からわずかに伸びが加速している。前月比は▲0.11%と前月（同+0.14%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の低下に伴う輸送コストの下押しが財価格を押し下げているほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大を受けて行動制限が再強化されるなか、サービス物価に下押し圧力が掛かる動きもみられる。

図5 TH 製造業生産の推移

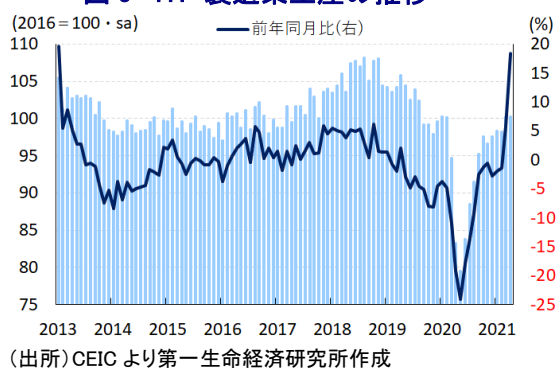
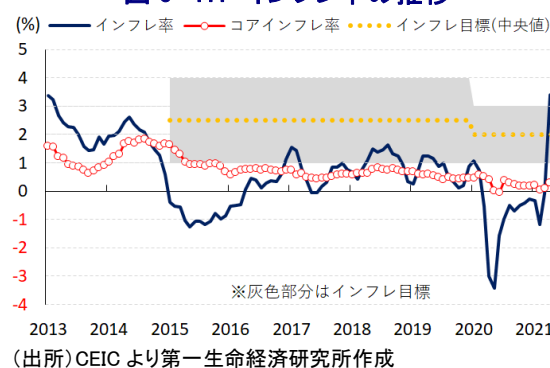


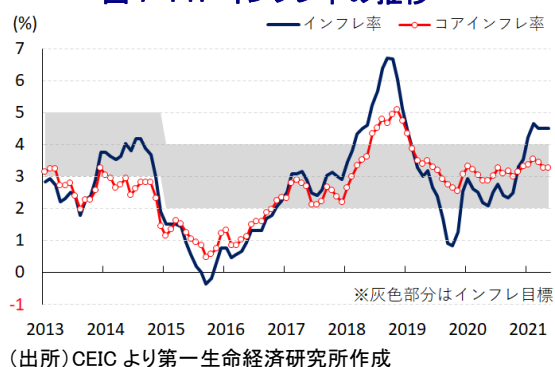
図6 TH インフレ率の推移



### [フィリピン]～国際原油価格の上昇に伴うエネルギー価格の上振れがインフレ圧力を招く展開が続いている～

4日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+4.5%となり、前月（同+4.5%）から3ヶ月連続で同じ伸びとなるとともに、5ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標（2～4%）を上回る水準で推移している。前月比も+0.08%と前月（同▲0.08%）から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、生鮮品を中心とする食料品価格は下落傾向で推移する一方、国際原油価格の底入れの動きなどを反映してエネルギー価格は上昇傾向を強めるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.28%と前月（同+3.28%）と同じ伸びで推移しており、インフレ率と対照的にインフレ目標の範囲内に収まっている。ただし、前月比は+0.16%と前月（同+0.00%）から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れの動きを反映して幅広く消費財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる。同国では変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大を受けて3月末以降に行動制限が再強化されるなど、景気に悪影響が出ることが懸念されたものの、足下では人の移動が底入れするなど改善の兆しがうかがえるにも拘らずサービス物価は低調に推移するなどインフレ圧力が高まりにくい状況が続いている。

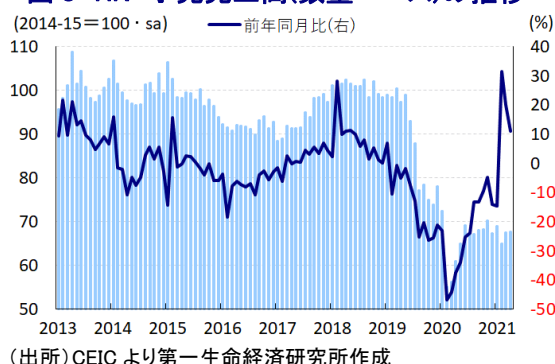
図7 PH インフレ率の推移



### [香港]～高額品や日用品など幅広い財で消費の底入れが進んでおり、オンラインの活発化も消費を後押し～

1日に発表された4月の小売売上高(数量ベース)は前年同月比+10.9%となり、前月(同+19.9%)から伸びが鈍化した。前月比も+0.30%と前月(同+4.01%)から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染一服を受けて経済活動の正常化が進んでいる一方、生活様式の変化を反映してEC(電子商取引)を通じた消費の動きが活発化しており、小売売上高全体を押し上げる動きもみられる。食料品など生活必需品に対する需要は弱含んでいる一方、宝飾品や自動車をはじめとする高額品のほか、衣類や靴などの日用品など幅広い分野で堅調な動きをみせており、緩やかながら家計消費の動きが底入れしている様子がうかがえる。

図8 HK 小売売上高(数量ベース)の推移

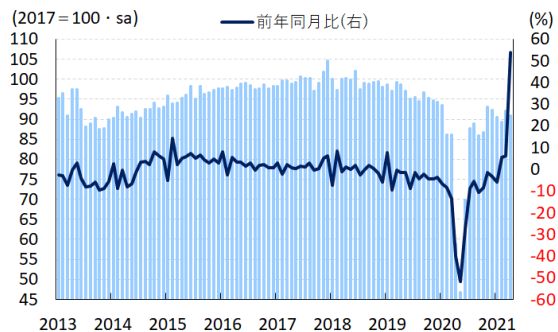


### [シンガポール]～自動車販売や高額品需要の底入れの動きは一服も、幅広く消費に底堅い動きがみられる～

4日に発表された4月の小売売上高は前年同月比+54.0%となり、前月(同+6.3%)から伸びが加速した。なお、前月比は▲1.33%と前月(同+3.01%)から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。同国では月ごとに自動車販売の動向が上下に振れやすい傾向がある上、小売売上高全体の動向を左右するなか、当月の自動車販売は前月比▲4.40%と前月(同+7.81%)から2ヶ月ぶりの減少に転じたことが影響している。ただし、自動車を除いたベースの小売売上高も前月比▲0.76%と前月(同+2.18%)から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせている。宝飾品など高額品のほか、娯楽用品関連の消費は底入れの動きに一服感が出ている一方、衣料品をはじめとする日用品の消費は堅調

な推移をみせている上、食料品など生活必需品に対する消費も底堅く推移するなど、雇用回復の動きや新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染拡大一服を受けた経済活動の正常化の動きを反映して全般的に底堅い動きをみせている。

図9 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。